



# 教育ゆりほんじょう

第 24 号  
令和 8 年 3 月 11 日  
由利本荘市教育委員会  
学 校 教 育 課  
教 育 支 援 セ ン タ ー

## 年 度 末 に 寄 せ て

学校教育課長 村 上 雅 美

令和 7 年度も残すところわずかとなりました。一年間の教育活動において、日々直面する課題に真摯に向き合い、子どもたちの成長のために心を尽くしてくださっている教職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

今年度を振り返りますと、学習指導、生徒指導、学校行事、地域との連携など、各校において多様な取組が展開されました。その一つ一つが、子どもたちの「学び」と「育ち」を確かに支え、未来へと導く大切な営みでありました。その中から 2 点について述べさせていただきます。

1 点目は、鳥海小学校がモデル校として 2 年間研究に取り組んだ「ICT を活用した授業力向上事業」についてであります。11 月の授業研究協議会で提示された 2 つの授業では、必要な場面で自然かつ効果的にタブレットが活用され、担任の先生と子どもたちが目を輝かせて生き生きと学ぶ姿に、大変感銘を受けました。校長先生が「うちの職員は本当によく頑張ってくれている。頭が下がる思いです。」、教頭先生が「手前味噌ですが、自慢の職員と子どもたちです。」と笑顔で語られた言葉も、強く印象に残っております。鳥海小学校の研究成果が、市内すべての学校へ波及していくことを期待しております。

2 点目は、学校の統廃合についてであります。尾崎小学校、子吉小学校、小友小学校の 3 校の閉校、そして新生鶴舞小学校および本荘東小学校の開校に向けては、当該校の教職員の皆さまに、言葉では尽くせないほどのご負担とご苦勞をおかけしました。その熱意と献身の一つ一つに、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

また、各校におかれましては、保護者や地域とのつながりづくりにも力を尽くしていただきました。学校が地域に開かれ、多様な価値観が交わる場として機能することは、これからの教育においてますます重要です。丁寧な説明や粘り強い協働の積み重ねが、子どもたちを中心に据えた信頼関係を育み、その積み重ねが学校の安心感や安定感につながっているものと感じております。

年度末は多忙さが一層増し、心身ともに疲れが蓄積しやすい時期でもあります。まずは、ご自身の健康と心のゆとりを大切にしていきたいと思えます。子どもたちの確かな成長と、その先に広がる笑顔を支え続ける皆さまが、無理なく力を発揮できる環境づくりは、教育委員会にとっても最重要課題の一つです。引き続き、「働きがいのある学校」の実現に向けて、現場の声を丁寧に受け止めながら、働き方改革や部活動の地域展開など、実効性のある取組を進めてまいります。

まもなく迎える新年度は、新たな出会いと挑戦の始まりでもあります。異動される方、初めての分掌や責務に向き合う方など、それぞれに新たな歩みが始まります。環境の変化には不安が伴うこともありますが、同時に成長や可能性を広げる契機でもあります。皆さまがこれまで培ってこられた経験と専門性を存分に発揮し、今後も力強く、そして優しく、温かく子どもたちを導いてくださいますようお願いいたします。

私たち教育委員会職員一同、これからも学校とともに歩み、本市の未来を担う子どもたちの笑顔のために、より一層力を尽くしてまいります。

# 第2回由利本荘市コミュニティ・スクール 連絡協議会が開催

令和8年1月29日（木）午後2時から西目公民館シーガルで、第2回由利本荘市コミュニティ・スクール連絡協議会が開催されました。「学校運営協議会の在り方」をテーマに、各学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進の再確認と来年度に向けた具体的な見通しをもつことをねらって、CSマイスターの講話と地域ごとの熟議を行いました。

## ～ 高野CSマイスターの講話から ～

### <コミュニティ・スクールとは>

委員が校長とともに学校を運営していると同時に、協議したことが地域学校協働活動に生かされている、つまり、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体的に推進されていなければ、コミュニティ・スクールとは言わないという意味合いに変わってきている。

#### 資料1

- どんな子供に育てたいかという姿を、教職員全員、保護者全員、地域住民全員、みんなが共有していなければならない。
- この地域を元気にしていくために、地域で子どもたちをどう育てていきたいか、色々な方から意見をもらうことが大切。学校経営に関するアンケートを含め、来年度の方向性を決めていくのも学校運営協議会の役目。教育計画に、何月の何の授業にどんな地域の方をお願いをしてどんな力を付けるのか、学校運営協議会でも語ってほしい。
- 信頼関係を築くことは、説明責任を果たすこと。HPにコミュニティ・スクールの項目を起こして情報発信するなどをお願いしたい。

#### 資料2

- コミュニティ・スクールを通じた地域と共にある学校づくりは、地方自治の基盤強化につながる。子供のこと学校のことを入り口にして、次世代における地方自治の担い手を育成する。
- コミュニティ・スクールは、学校の子供たちだけのものではない。コミュニティ・スクールが機能していくことで、社会全体がどんどんつながっていくことになる。

#### 資料3

- 「学校の課題を関係者が皆で熟議し、解決を図る試みの積み重ねが、一見子供の問題のように見えて、実は大人社会の問題、自分たちの住む地域社会の問題でもあるのだと気付くことになる。」（「みんなで創ろうコミュニティ・スクール」より抜粋）とあるように、子供のために何かできることはないかと、コミュニティ・スクールの仕組みをうまく使い、いろんな方々で一緒に考えていく。

#### 資料4

- 学校運営協議会で取り上げる学校課題は、うわべだけのものでは何も意味がない。学校運営の状況や児童生徒を取り巻く様々な課題を委員に伝えてほしい。その支援について協議し、形にしていくのが地域学校協働活動。働き方改革、部活動の地域移行などの問題も学校の課題として話し合われている。

### <まとめ>

コミュニティ・スクールの周知ということがとても大事。他県では、商店街のショーウィンドウを活用して学校のお知らせを貼ったり、児童生徒の作品を展示したりして、地域の方の目に触れるよう工夫しているところがある。子供が休みの日に町内で避難訓練をしたり、夏休みに教職員とCS委員とで熟議を行ったり等の取組もある。それぞれの学校、それぞれの地域にあったやり方で、取組や周知の方法を考えてほしい。子供たちのためプラスみんなのために、コミュニティ・スクールをよろしく願います。

#### 資料1

コミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)とは

学校運営に保護者や地域住民等が参画することを通じて、以下の事項を推進。

##### ① 地域の声を活かした学校マネジメントの強化

- 「育てたい子供の姿」を学校・地域が共有し、児童生徒・教職員・保護者・地域住民の声を聞きながら、熟議を通して、学校の教育方針や教育活動に地域のニーズを反映する。
- 教育計画の策定・実施・評価のプロセスの中で、教育活動の成果や課題を学校と地域で共有する。
- 学校と地域が協議、説明責任を果たすことを通じて互いの信頼関係を築き、地域とともにある学校づくりを推進する。

##### ② 地域資源を活かした教育の充実と課題解決

- 保護者や地域住民等が協働するプラットフォームの中で、地域の創意工夫を活かした体験的・探究的な学習等を推進し、児童生徒の資質能力の向上を図る。
- 子供・学校・地域の課題解決を図ることで、学校を核とした地域づくりを推進する。

#### 資料2

コミュニティ・スクール制度を通じた地方自治機能の強化

##### コミュニティ・スクール制度

- ◆ 地域でどのような子供達を育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを、地域住民と共有。
- ◆ 学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組む。



地域住民が教育の当事者となることで、責任感をもって学校及び地域の課題解決に取り組む

地域住民が参画・協働することで、顔が見える関係となり、学校を中心に地域住民につながる

大人の「地域のことを考え、地域のために協働して動く姿」を見て、子供達が「自分たちの町、地域は自分達で創る」ということを意識する



コミュニティ・スクールを通じた地域とともにある学校づくりは、地方自治の基盤強化につながる。

きっかけになりやすい「子供の事、学校のこと」を入口として、次世代における地方自治の担い手を育成



### 資料3

学校の課題を関係者が皆で熟識し、解決を図る試みの積み重ねが、一見子どもの問題のように見えて、実は大人社会の問題、自分たちの住む地域社会の問題でもあるのだと気づくことになる。

この気づきが大人の学びの場に連続することとなり、必然的に皆で自分たちの住む地域をよくしていこう、それぞれの家庭で何かできることはないのか、行政だけに解決を求めるのではなく自分たちで何かできることはないのか、ということに発展する。

「みんなで創ろうコミュニティ・スクール Let's sow the seeds of democracy」  
 組織代表 員ノ瀬 謙一・鈴木寛（松光堂）より挨拶



### 資料4

#### 学校が抱える課題について協議



## ～ 地域ごとの熟識から ～

＜本荘北地域＞育てたい力の一覧表が、地域で認識できるようにしていく。学校運営協議会で振り返りシートを活用する。

＜本荘南地域＞合同あいさつ運動を地域に広げていく。小中合同会議を熟識の形で実施し児童生徒の意見を拾い上げたい。

＜本荘東地域＞児童生徒への安全指導とともに大人への啓発も学校運営協議会を通してしていく。東小になっても地域ならではのよさを子供を通して広めていきたい。課題解決の協議を大切にした学校運営協議会に移行していきたい。

＜矢島地域＞地域で育てたい資質・能力の共有が課題。学校からの情報発信の仕方、学校運営協議会にお願いできることは何か等について今後話し合っていく。

＜岩城地域＞課題について子供たちと一緒に話し合う場をもち手立てを考えていくという流れにしたい。育てたい資質・能力を地域に広く発信するための方法を今後検討していきたい。

＜由利地域＞支所だより等を活用して、学校の情報が地域にも届くように工夫したい。町の作品展示会等に、小中学生の作品を展示することで、地域の人が集まる場所になるような取組も考えたい。

＜西目地域＞育てたい力をもっと伸ばすためにも、CS委員のアイディアを生かしながら地域のためにできることを考え取り組んでいきたい。CS委員が先生方と話をする機会を設定する。CS委員組織の再編についても考えていきたい。

＜鳥海地域＞地域貢献、地元愛の育成をねらって、保・小・中・地域に範囲を広げた民俗芸能の実践に取り組む。CS委員と児童生徒の交流、児童生徒と地域のコミュニケーション、CS委員と教職員の情報交換と共有の場を設定していきたい。

＜東由利地域＞表現力を育てるために、運動会や学校祭など、子供たちが表現する活動の場を意図的に設定し、地域の方にどんどん来ていただく。大きな行事は、紙媒体で全戸配布し、広く情報発信したい。

＜大内地域＞学校の情報や想いを広げるために、町内会長さんから地域へという流れも考えられる。児童生徒とCS委員とが話し合う機会を設けることで、児童生徒・学校・地域の想いを共有しアクションプランに結び付けていく。

\*\*\*\*\*

#### 【お願い】各校の学校運営協議会会則をご確認ください。

「由利本荘市学校運営協議会の設置等に関する規則（令和6年4月1日から施行）」が一番新しい規則になります。平成24年施行のものと大きく変わっていますので、確認の上、自校の会則の見直しをお願いいたします。

\*\*\*\*\*

今回のCS連絡協議会では、講話や熟識によってCSの基本的な考え方に立ち返り、課題を整理して次年度の見通しをもつことができました。地域で育てたい子供の姿を皆で共有し、協議する合議制の機関としての学校運営協議会を機能させながら双方向の連携・協働が一層なされますよう、今後ともよろしくお願いたします。ご協力ありがとうございました。

